ホソバハグマ *Ainsliaea Faurieana* Beauv. は外形がキッコウハグマと甚しく違っているけれども其の類縁は甚だ近いと思われる。ホソバハグマの生ずる所は常に渓谷の岩上である。ノコンギク *Aster ageratoides* subsp. *ovatus* Kitam. に対するタニガワコンギク *A. ripens* Kitam., アキノキリンソウ *Solidago japonica* Kitam. に対するアヤギバナ *S. Yokusaiana* Makino, ニガナ *Ixeris dentata* Robins. に対するドロニガナ subsp. *kitayamensis* Murata との関係は類似性の方向に進んだ平行的変異であると思う。森林又は草原の土壌に生ずるものが渓谷岩上に生じて，葉の狭化と多葉化を起したものである。其等は原種との間によく間種を生じ得るものである。

○ キク科三品について (杉本順一) Junichi SUGIMOTO: Short Notes on three Japanese compositae

1. **Ixeris dentata** Robinson subsp. **stolonifera** Kitamura var. **ozensis** Sugimoto, var. nov.—Caulis manifeste stolonifer. Folia lanceolata integra, caulina una basi attenuata. Involucri squamae interiores 7 sub anthesin 8 mm longae. Flores 7 albi. Nom. Jap. Oze-nigana (Ohmura)

Hab. Hondo, Ozenuma in prov. Kodzuke (T. Ohmura 19 Jul. 1956)

オゼニガナ (新変種)。ハイニガナと同様に短匍枝を生ずる型で，舌状花は白色で7個を有する。尾瀬沼畔にて大村敏朗氏の採集。

2. **Ixeris stolonifera** A. Gray f. **albiflora** Sugimoto, f. nov. — Flores albi. Nom. Jap. Sirobana-iwanigana (nov.)

Hab. Hondo, Mt. Tenzinyama in prov. Bittiu (J. Sugimoto 27 May 1927)

シロバナイワニガナ (新品種)。イワニガナの舌状花の白色のものが備中天神山に産する。筆者の採集。

3. **Senecio nikoensis** Miquel f. **albiflorus** Sugimoto, f. nov.—Flores radii albi. Nom. Jap. Sirobana-sawagiku (nov.)

Hab. Hondo, Kamikoti in prov. Sinano (J. Sugimoto, 19 Jul. 1956)

シロバナサワギク (新品種)。サワギクの舌状花のみが白色のものが信濃上高地の一部に群生していたのを昨年夏採集した。傍に黄花の常品が多生していた。

4. **Saussurea modesta** Kitamura 1933—*S. kirigaminensis* Kitamura 1934, syn. nov. Nom. Jap. Nekoyama-higotai

Hab. Hondo, prov. Sinano (J. Sugimoto; T. Ohmura); prov. Totomi (J. Sugimoto, 1952); prov. Bingo (Yokomizo)

ネコヤマヒゴタイとキリガミネトウヒレン。備後猫山に産するネコヤマヒゴタイと信濃霧峰等に産するキリガミネトウヒレンとを両原産地からの標本を比較した所，区別が困難となつた。其の旨北村博士に御話した所，大きく見て同種となる様である。尚本種は遠江浜松市三方原の湿地でも筆者は採集したので北村博士に見て頂いて本種である事が確定した。古く種子が霧が峰から天竜川を流れて来てこんな低地に繁茂した遺物と考えられる。一昨年信濃大鹿村でイナトウヒレン *S. inaensis* Kitam. を採集したので比較して見たが，之は総苞の形が違うので全く別種である。

シロバナネコヤマヒゴタイ (新品種)。本種には稀に白花品があつて普通の紫花品と混じて浜松市三方原の湿地に生じていた。浜松農業高校教諭伊東博氏の採集。